立命館守山中学校・高等学校　2019年度　学校目標　年度末評価シート

教育目標	立命館守山中学校・高等学校は、立命館憲章が掲げる「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成」を教育目標とし、優秀な「グローバルサイエンスリーダー」を輩出する「滋賀県No.1の教育力を持つ学校」づくりを目指す。	中期目標	①滋賀県のトップスクールの地位を確固たるものとする学校づくり ②新しいコース再編とカリキュラム高度化 ③課外活動での大学連携強化と学術文化活動の強化 ④広報強化と制度改革による安定した入試政策の確立 ⑤学校全体が一丸となって課題を推進する教員組織整備 ⑥ICT利活用教育展開を中心とした施設整備・充実

区分	A.課題(上位目標)		B.目標（中位目標）		C.達成目標（当年度目標）		D.自己評価	E.具体的施策（どのような方法で）
教学課題	Ⅰ	滋賀県のトップスクールの地位を確固たるものとする学校づくり	1	理系を中心とした中高大院接続教育モデルの実現	(1)	SSH事業を通じた大学との接続教育の展開	◎	①理工系学部との高大連携企画への参加促進 ②理工学部ラボを活用したSci-Tech部との活動連携 ③SSH諸企画の生徒への情報提供と参加促進 ④新AP科目の具体化に向けた各学部との協議
					(2)	理系学部進学者数の増加	△	
					(3)	2020年度に開始する新AP科目の具体化	◎	
			2	ICT教育での先進的な実績を創出	(1)	ICT機器活用による学習スタイルの転換	◎	①ICT教員研修会の開催 ②各教科におけるICT活用の追求 ③学習データを活用した実証研究 ④ICT公開授業研究会への大学関係者の参加要請
					(2)	教員のICTスキルの向上	◎	
					(3)	ICT公開授業研究会の成功	◎	
			3	国内外難関大学への高い進学実績を創出	(1)	大学新テストへの対応	○	①各教科での大学新テスト研究 ②FTキャリアプログラムに向けた朝日新聞社との連携 ③進路相談・個別指導の充実 ④進学目標の設定（東京阪神医10人）
					(2)	FTキャリアプログラム（海外研修）の準備	○	
					(3)	難関国公立・医学部進学者増	◎	
	Ⅱ	新しいコース再編とカリキュラム高度化	1	中高フロンティア(FT)コースの改組と高校アカデメイア(AM)コースの充実	(1)	中学FTコースのプログラム充実	○	①中学FTの高校FT・GL進学動機付け（説明会の開催等） ②中学FTの授業内容に発展的要素を導入 ③特色教育部によるグローバル・サイエンスプログラムの実施 ④卒業生や社会人、大学関係者による講演会・講座の開催
					(2)	高校AMグローバル・サイエンスプログラムの充実	○	
					(3)	キャリア教育プログラムの充実	◎	
			2	グローバル(GL)コース新設と国際教育の充実	(1)	GLコース1期生のプログラム充実	◎	①APUオリエンテーションキャンプ等の新規プログラムの成功 ②GLを中心とした海外留学の促進 ③長短期留学生受入の拡大 ④中1英語エキスパートプログラムの展開
					(2)	海外派遣・受入業務の強化	◎	
					(3)	中学生の英語上位層の英語力伸長	○	
			3	新カリキュラムの充実と基礎学力の向上	(1)	R-Style授業の追究と公開授業研究会の成功	◎	①各教科単位でのR-Style授業研究促進、公開研の成功 ②文社探究Ⅰ・理数探究Ⅰの授業開発 ③SDGs指標を活用した社会と結びついた学びの充実 ④中３英検準２級、高３TOEFL平均450
					(2)	高校探究科目の展開と質的向上	◎	
					(3)	英語を中心とした基礎学力指標の向上	○	
	Ⅲ	課外活動での大学連携強化と学術文化活動の強化	1	高校指定クラブの強化	(1)	中学から優秀選手を獲得	○	①クラブ推薦入試によるリクルート活動強化 ②学外練習施設の利用促進 ③クラブを通じた高大連携の推進 ④応援時の生徒バス運行
					(2)	各種大会での実績創出	◎	
					(3)	大会出場時の応援体制充実	○	
			2	学術文化活動の強化	(1)	Sci-Tech部のロボカップJr.世界大会出場	◎	①SSH事業によるSci-Tech部への人的・財政的支援 ②SAP（サイエンスアカデミックプレゼンテーション）の開催 ③学生部との連携による課外活動支援 ④地域ボランティア等、校外で活動に取り組む生徒をサポート
					(2)	活動成果発表の場を設定	◎	
					(3)	クラブ以外の自主活動を支援	◎	
			3	学業と活動を両立させる「文武融合」の実現	(1)	生徒の成長を実現するクラブ活動の展開	○	①学校としてのクラブ活動運営方針の策定 ②クラブ活動指導員制度の導入（法人） ③ATC（アスレチックトレーナー）の各校訪問・支援 ④スポーツ健康科学部との連携促進
					(2)	スポーツ系クラブにおける科学的練習の促進	○	
					(3)	休養日設定・活動時間の見直し	○	
管理運営課題	Ⅰ	広報強化と制度改革による安定した入試政策の確立	1	入試広報の充実	(1)	入試広報体制の強化	◎	①「入試広報部」への名称変更とメディア総務部との連携強化 ②業者変更とデザインの刷新 ③生徒会との連携による生徒イベント化 ④先進校視察等の情報収集
					(2)	学校案内パンフレットの充実	◎	
					(3)	入試イベントの新展開	◎	
			2	入学者目標の設定	(1)	中学志願者数700名（92.4%）	◎	①3科4科選択制度の導入 ②適性検査型入試の改定 ③受験料改定 ④WEB出願の拡充
					(2)	中学入学者数160名	◎	
					(3)	高校入学者数320名	◎	
			3	執行運営の改善	(1)	入試執行におけるミスの防止	◎	①紙媒体広告からの撤退 ②作問体制の改定 ③採点支援システム導入 ④入試情報システム導入
					(2)	業務負担とコスト軽減	◎	
					(3)	次年度へ向け入試情報システムの導入	◎	
	Ⅱ	学校全体が一丸となって課題を推進する教員組織整備	1	教員増に伴う校務分掌体制の見直し	(1)	特色教育（Science・Global・ICT）推進体制の確立	◎	①Science・Global会議の時間割内配置 ②1クラス2名体制の確立 ③会議におけるペーパーレス化の徹底 ④教員会議における審議・報告事項の峻別
					(2)	クラス増に伴う担任・副担任体制の確立	◎	
					(3)	校務運営の効率化に向けた検討	○	
			2	教員の力量向上に向けた研修強化	(1)	教員の教育力量向上の推進	○	①教員会議の時間を活用した研修会開催 ②夏季教研の充実 ③研修センター主催研修会への参加促進 ④ハラスメント研修の開催
					(2)	ハラスメント防止の促進	○	
					(3)	各種研修会への参加促進	○	
			3	働き方改革の実践と勤務管理に向けた準備	(1)	働き方改革プランの具体化	◎	①働き方改革プランの策定と丁寧な校内審議 ②勤務管理体制のあり方の具体化 ③クラブ活動のあり方の具体化 ④労使協定締結に向けた組合との協議
					(2)	勤務管理導入に向けた準備	◎	
					(3)	教員間での合意形成の推進	◎	
	Ⅲ	ICT利活用教育展開を中心とした施設整備・充実	1	校内のICT教育整備	(1)	教室の第2期情報基盤整備	◎	①ICT整備3ヶ年計画に基づく第2期整備の遂行 ②2020年度導入予定の校務支援システム「賢者」の導入準備 ③採点支援システムの各教科での利用拡大 ④採点支援システムの入試での試行的導入
					(2)	校務支援システムの導入準備	◎	
					(3)	採点支援システムの実践	◎	
			2	運動施設の整備・充実	(1)	第2体育館改修第2期整備	◎	①第2体育館の冷房設備設置 ②クラブBOXの割当再編、清掃 ③守山市との折衝 ④市民球場の照明設備設置の管財課調整
					(2)	クラブBOXの再整備	◎	
					(3)	硬式野球部練習用守山市民球場整備	○	
その他								

達成状況	（１）滋賀県のトップスクールの地位を確固たるものにする学校づくり ・授業におけるR-Styleの構築では、主体的な学びへの質的転換、探究的な学びの充実・系統化に取り組んだ。第1回R-Style公開授業研究会は、200名を超える参加で成功した。 ・ICT教育のさらなる高度化では、アクティブラーニングやPBL型授業など、新たな学びのスタイルへの転換を進めた。3月の臨時休校期間のオンライン遠隔授業は大きな成果を上げた。第５回「ICT公開授業研究会」には全国から300名の参加者があり、学校視察も42組150名以上を受入れるなど、ICT教育先進校として貢献した。 ・第３期スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究事業である「校種・教科横断型の系統的科学プログラム」の開発に向け、理工系学部との連携をすすめた。 ・フロンティアコース（FT）を中心とした大学合格実績では「東京阪神医10名」の目標を達成した（京大２、阪大４、滋賀医大２、自治医大２他）。 （２）新しいコース再編とカリキュラム高度化 ・中学において英語キャンプやエンパワーメントプログラムを実施、英語上級者対象のエキスパートプログラムを開講した。 ・高校の短期・長期留学や語学研修を充実し、1年間の海外からの受入者数は200名を超え、海外留学派遣数も長短合わせて102名、全員参加の海外研修を含めると600名を超えた。 ・高校２年の「理数探究Ⅰ」「文社探究Ⅰ」を新たに配置、「探究的学びの基礎」から「研究の基礎演習」の段階へスムーズに展開する流れをつくった。 ・立命館SDGs推進本部や立命館・社会起業家プラットフォームRIMIXとの連携、朝日新聞社やSONY、Life is Tech社との企業連携など、従来の枠組みを越えた新たな学びのつながりが生まれた。 （３）課外活動の前進 ・中学吹奏楽部がアンサンブル部門で関西大会、創部4年目の高校硬式野球部が近畿大会へそれぞれ初出場した。 ・アメリカンフットボール部、バトントワーリング部、軟式テニス部、将棋部は全国大会、サイテック部はロボカップ世界大会（総合3位）へ連続出場した。個人競技では、パラパワーリフティングで世界大会出場を果たした。 ・立命館総長ピッチチャレンジのファイナルへの出場やキャリア甲子園全国大会の決勝進出など、SDGsやPBL型の学びを体験した生徒が全国的なコンクールで入賞する新たな成果があった。 （４）安定した入試政策 ・中学入試は、受験機会の増加や試験科目の複線化、重複受験料の減額など、受験生の多様なニーズに応える改革を進めた。その結果、志願者が647名（昨年度568名）、入学者も191名（同160名）に増加した。特に、志願者数は、関西私立中学入試において最も増加した昨年度をさらに超える人数となった。 ・高校入試は、中学卒業者数の減少など厳しい情勢の中、昨年とほぼ同数となる475名（昨年度476名）の志願者を集めることができた。入学者は201名（昨年度175名）と大きく増加、特にフロンティア（FT）やグローバル（GL）を含む、本校を第一希望とする推薦区分での増加153名（同117名）が顕著となった。 （５）教員組織整備 ・教員の資質能力の向上と学校の教育力向上の課題では、教科や学年での研究授業や全校的な公開授業研究会を定期開催するとともに、広く学外研修会への参加も奨励し、教員の授業力向上を図ってきた。 ・持続可能な学校の指導・運営体制の構築、教員のワークライフバランスの実現を図るため、業務の見直し・効率化、勤務体制の改善、学校支援人材の活用を中心に働き方改革を進めた。 （６）施設設備・充実 ・授業や課外活動での利活用向上を目指し、第2体育館を改修、講義室の教室化を実施した。 ・ICT教育の高度化を図る第2期工事をすすめ、教室の情報提示装置やホワイトボードを最新型の機種に交換した。 ・硬式野球部のグラウンド確保は、学園と守山市の支援により守山市民球場活用の目途が立った。
改善策	（１）探究的な学びの展開とリンクさせて、基礎学力養成にフィードバックさせるしくみ・指導方法の開発が必要。 （２）社会課題に貢献する生徒の活動が開始されているが、それが一部にとどまっている。こうした動きが大勢となるような仕掛けを検討すべき。 （３）学校の将来構想が検討途中である。次年度前半期にはプランを策定するべく、検討をすみやかに行うことが課題である。

学校関係者評価に関する事項		
	委員会の構成	亀田晃巖(唯明寺住職)、高山茂(理工学部学部長)、田代弥三平(守山市教育委員会教育長)、前田啓好(立命館守山早苗会名誉会長)、森川茂樹(守山市教育委員会教育部次長)、寺田佳司(校長)、松井健(副校長)、岩崎成寿(副校長)、崔幸浩(事務長)、仲弘一朗(事務長補佐)
	委員会開催日程 主な議題	第1回:2019年6月4日(火) 10:30～12:20 第2回:新型コロナの影響により予定されていた会議を中止
	評価、改善事項	ICT教育、キャリア教育に加え、中学1年に新規導入の英語エキスパートプログラムに対する評価をいただいた。社会と結びつくプログラムの開発が課題として共有された。